

様式2

平成25年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

校訓 自律・創造・協働

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケット・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな 他者を思いやる人間を目指す		

年 度 当 初						評 価 結 果（月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケット・マナーの育成	(1)全職員の一致協力的指導(全体集会、集団行動、1年生オリエンテーション)	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあたった」「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	各教科担当者からの情報提供をさらに求め、全職員が一致協力して指導する。			
	(2)エチケット・マナーの育成(挨拶の励行・態度等の指導)	・授業や実習等でも指導を重ね、頭髪・服装指導も定期的に実施し、成果もあがりつつある。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」「言葉遣い良い」生徒「前年度(中学の時)に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	教員側から進んで生徒に声かけを行い、挨拶の習慣化や日常的に言葉使いの指導を行う。			
	(3)生徒指導(問題行動の防止・頭髪・服装指導)の徹底(生徒会との連携)	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・基本的生活習慣を定着させる。 ・生徒の規範意識を高め、問題行動を減少させる。	・問題行動発生数前年度比50%以上減ならばA。(1)	生徒指導部と担任団、教科等で連携し、身だしなみの不十分な生徒への指導を強化する。 生徒の進路意識・職業意識を高め、自覚ある生活態度を育成する。			
	(4)遅刻指導の徹底(学年団・生徒指導部連携指導)		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。(1)	迅速・適確な保護者連絡を徹底し、各学期半ばでも遅刻対策手段等を講じる。			
授業改革・学力向上	(1)授業を大切ににする(授業公開による授業改革)	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材(プリント等)を工夫した。 ・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等実施してきた。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。 ・クラスの状況や生徒の理解度に応じて授業展開の工夫や補講・個別指導等を行う。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「学習意欲が高まった」「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「基礎学力定着が図れた」生徒「学習意欲があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	授業見学等を進め、効果的な授業展開の研究(教え合い、演習実験など)を進める。基礎力診断テストの結果等をもとに指導方法に工夫を図る。生徒の理解度に応じたプリント(補助教材)づくりも必要である。また定期考査前に勉強会を開くなど必要に応じて工夫する。 発問やプリント、板書内容等工夫し、学習意欲が湧くよう工夫する。			
	(2)基礎学力の向上(SPI小テスト・模試による基礎学力向上)	・24年度は多くの生徒が資格取得できた。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。	・基礎学力未定着層にいる生徒数を30%減ならばA。(1)	・SPI小テストを実施し基礎学力定着を図る。また、就職模試や基礎力診断テスト実施など進路選択を確実なものにする基礎学力の定着を図る。			
	(3)専門的資格取得の促進(基礎的資格取得96%、ジュニアマイスター取得者増)		・96%以上の生徒が専門的資格を取得する。	・96%を超える生徒が検定合格・資格取得ならばA。(2)	早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促すとともに指導の工夫をする。			
キャリア教育による進路実現	(1)系統だったキャリア教育による進路意識・職業観の育成		・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。面接で実力が発揮できるよう今後はスピーチ練習等を強化する。また、1、2年生には3学期のLHR等を活用する。			
	(2)コミュニケーション能力の向上による進路実現(1分間スピーチ・面接指導の充実)	・24年度は就職希望者は100%内定を勝ちとった。	・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	すべての生徒の進路が決定したならばA。※	面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話力を高めたり、作文指導を徹底し、コミュニケーション力の豊かな人材育成を図る。			
	(3)インターンシップ・企業研修の推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で地域委員等からも評価を受ける。※	引き続き、就業体験を通して専門教科に対する興味関心を深められるよう、各企業の協力のもと、重ねて指導する。			
	(4)企業研修旅行の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立てる。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	さらに研修先を精選し、効果のある研修旅行・企業見学を進める。			

心の教育の推進と部活動・生徒会活動の推進	(1)部活動の活性化(部活加入率の向上、全国大会出場数の向上)	・24年度全国大会出場部活等は8つであった。団体競技も成果をあげつつある。	・運動部活動の奨励と強化。文化部活動の活性化を図り、加入率が80%以上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・全国大会に出場した部活が6つ以上あればA。(3)	クラブ・斉会議等のオリエンテーションを充実させることによって、部活動加入者数を増やす。			
	(2)生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実、部活応援)	・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等をおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導するとともに、生徒の学校を良くしていこうという声を吸い上げ達成感を持たせる工夫をする。			
	(3)心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるにつれ、読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広まった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	関係分掌と相談し、生徒への喚起を続け、本も準備できるようにする。必要に応じて、校外関係機関との連携を進める。			
	(4)人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	今後あらゆる場面で生徒の人権感覚を磨けるよう指導する。			
ものづくり人材育成	(1)環境エネルギー科・建設科(土木コース、建築コース)の立ち上げ		・新学科立ち上げの準備を進める。		・関係機関と連携する。			
	(2)TEASによる環境教育の推進(5Sの徹底)	・朝清掃を行い、環境への意識を向上できた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	引き続き、5Sの徹底を進め、加えて環境を大切にする意識を育てる。			
	(3)ものづくり事業の充実(地域委員会との連携)	・ものづくりコンテスト(電気工事部門)で全国大会へ出場した。 ・地域委員の提言を各科の指導に生かした。	・地域委員会の活用。 ・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	授業公開週間等に合わせ各科で地域委員を招き、授業参観してもらったり助言等をいただいたりして、改善すべきところを改善する。			
	(4)安全教育の推進	・各科の実習で安全教育をすすめた。	・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	実習前後に安全面の諸注意を徹底し、安全教育を推進する。			
	(5)プレゼンテーション力の向上(課題研究発表会等)	・課題研究等を進める中で課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。			
開かれた学校づくり	(1)地域社会や中学校との連携(公開実習・学校見学会の充実)	・昨年度は創立90周年を機に、中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらえた。	・米工地域委員会の活用や地域社会・中学校に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等をおし、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持てた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	学校公開・体験学習とも参加中学生のアンケート結果が良かった。次年度も早期開催等、中学生やその保護者への理解を図る。			
	(2)学校評価の充実	・小中学校との連携、テックボランティア等地域との関わりを大切にできた。	・学科の特色をわかりやすく発信する。 ・地域に根ざす技術力を提供する。	・教職員「学年だより等により学年からの発信できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	積極的に情報発信に努め、よりわかりやすい評価となるよう努力する。			
	(3)ホームページの充実(保護者へのメール配信)	・HPを改善し、学校からの情報発信を充実させた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	携帯メールでは、その発信時期の工夫とともに利用者を増やすことをめざす。			
	(4)PTA活動の推進		・ひきつづき、保護者・教職員との協力的指導が行えるようにする。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(4)	情報提供の方法を改善し、引き続き、保護者の学校への関心を高める。			

25年度 評価基準

アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 50%以上減 B 40%以上50%未満減 C 30%以上40%未満減 D 20%以上30%未満減 E 20%未満減
(2)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(3)の項目	A 全国5つ以上出場 B 全国3つ以上出場 C 全国1つ以上出場 D 中国大会等出場 E 県内大会出場のみ
(4)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目＝協議による

様式2

平成25年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

校訓 自律・創造・協働

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケット・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな 他者を思いやる人間を目指す		

年 度 当 初						評 価 結 果（月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケット・マナーの育成	(1)全職員の一致協力的指導(全体集会、集団行動、1年生オリエンテーション)	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあたる」 「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	各教科担当者からの情報提供をさらに求め、全職員が一致協力して指導する。			
	(2)エチケット・マナーの育成(挨拶の励行・態度等の指導)	・授業や実習等でも指導を重ね、頭髪・服装指導も定期的に実施し、成果もあがりつつある。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」 「言葉遣い良い」生徒「前年度(中学の時)に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	教員側から進んで生徒に声かけを行い、挨拶の習慣化や日常的に言葉使いの指導を行う。			
	(3)生徒指導(問題行動の防止・頭髪・服装指導)の徹底(生徒会との連携)	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・基本的生活習慣を定着させる。 ・生徒の規範意識を高め、問題行動を減少させる。	・問題行動発生数前年度比50%以上減ならばA。(1)	生徒指導部と担任団、教科等で連携し、身だしなみの不十分な生徒への指導を強化する。 生徒の進路意識・職業意識を高め、自覚ある生活態度を育成する。			
	(4)遅刻指導の徹底(学年団・生徒指導部連携指導)		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。(1)	迅速・適確な保護者連絡を徹底し、各学期半ばでも遅刻対策手段等を講じる。			
授業改革・学力向上	(1)授業を大切ににする(授業公開による授業改革)	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材(プリント等)を工夫した。 ・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等実施してきた。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。 ・クラスの状況や生徒の理解度に応じて授業展開の工夫や補講・個別指導等を行う。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「学習意欲が高まった」「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「基礎学力定着が図れた」生徒「学習意欲があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	授業見学等を進め、効果的な授業展開の研究(教え合い、演習実験など)を進める。基礎力診断テストの結果等をもとに指導方法に工夫を図る。生徒の理解度に応じたプリント(補助教材)づくりも必要である。また定期考査前に勉強会を開くなど必要に応じて工夫する。 発問やプリント、板書内容等工夫し、学習意欲が湧くよう工夫する。			
	(2)基礎学力の向上(SPI小テスト・模試による基礎学力向上)	・24年度は多くの生徒が資格取得できた。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。	・基礎学力未定着層にいる生徒数を30%減ならばA。(1)	・SPI小テストを実施し基礎学力定着を図る。また、就職模試や基礎力診断テスト実施など進路選択を確実なものにする基礎学力の定着を図る。			
	(3)専門的資格取得の促進(基礎的資格取得96%、ジュニアマイスター取得者増)		・96%以上の生徒が専門的資格を取得する。	・96%を越える生徒が検定合格・資格取得ならばA。(2)	早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促すとともに指導の工夫をする。			
キャリア教育による進路実現	(1)系統だったキャリア教育による進路意識・職業観の育成		・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。面接で実力が発揮できるよう今後はスピーチ練習等を強化する。また、1、2年生には3学期のLHR等を活用する。			
	(2)コミュニケーション能力の向上による進路実現(1分間スピーチ・面接指導の充実)	・24年度は就職希望者は100%内定を勝ちとった。	・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	すべての生徒の進路が決定したならばA。※	面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話力を高めたり、作文指導を徹底し、コミュニケーション力の豊かな人材育成を図る。			
	(3)インターンシップ・企業研修の推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で地域委員等からも評価を受ける。※	引き続き、就業体験を通して専門教科に対する興味関心を深められるよう、各企業の協力のもと、重ねて指導する。			
	(4)企業研修旅行の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立てる。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	さらに研修先を精選し、効果のある研修旅行・企業見学を進める。			

心の教育の推進と部活動・生徒会活動の推進	(1)部活動の活性化(部活加入率の向上、全国大会出場数の向上)	・24年度全国大会出場部活等は8つであった。団体競技も成果をあげつつある。	・運動部活動の奨励と強化。文化部活動の活性化を図り、加入率が80%以上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・全国大会に出場した部活が6つ以上あればA。(3)	クラブ・斉会議等のオリエンテーションを充実させることによって、部活動加入者数を増やす。			
	(2)生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実、部活応援)	・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等をおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導するとともに、生徒の学校を良くしていこうという声を吸い上げ達成感を持たせる工夫をする。			
	(3)心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるにつれ、読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広まった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	関係分掌と相談し、生徒への喚起を続け、本も準備できるようにする。必要に応じて、校外関係機関との連携を進める。			
	(4)人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	今後あらゆる場面で生徒の人権感覚を磨けるよう指導する。			
ものづくり人材育成	(1)環境エネルギー科・建設科(土木コース、建築コース)の立ち上げ		・新学科立ち上げの準備を進める。		・関係機関と連携する。			
	(2)TEASによる環境教育の推進(5Sの徹底)	・朝清掃を行い、環境への意識を向上できた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	引き続き、5Sの徹底を進め、加えて環境を大切にする意識を育てる。			
	(3)ものづくり事業の充実(地域委員会との連携)	・ものづくりコンテスト(電気工事部門)で全国大会へ出場した。 ・地域委員の提言を各科の指導に生かした。	・地域委員会の活用。 ・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	授業公開週間等に合わせ各科で地域委員を招き、授業参観してもらったり助言等をいただいたりして、改善すべきところを改善する。			
	(4)安全教育の推進	・各科の実習で安全教育をすすめた。	・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	実習前後に安全面の諸注意を徹底し、安全教育を推進する。			
	(5)プレゼンテーション力の向上(課題研究発表会等)	・課題研究等を進める中で課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。			
開かれた学校づくり	(1)地域社会や中学校との連携(公開実習・学校見学会の充実)	・昨年度は創立90周年を機に、中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらえた。	・米工地域委員会の活用や地域社会・中学校に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等をおし、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持てた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	学校公開・体験学習とも参加中学生のアンケート結果が良かった。次年度も早期開催等、中学生やその保護者への理解を図る。			
	(2)学校評価の充実	・小中学校との連携、テックボランティア等地域との関わりを大切にできた。	・学科の特色をわかりやすく発信する。 ・地域に根ざす技術力を提供する。	・教職員「学年だより等により学年からの発信できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	積極的に情報発信に努め、よりわかりやすい評価となるよう努力する。			
	(3)ホームページの充実(保護者へのメール配信)	・HPを改善し、学校からの情報発信を充実させた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	携帯メールでは、その発信時期の工夫とともに利用者を増やすことをめざす。			
	(4)PTA活動の推進		・ひきつづき、保護者・教職員との協力的指導が行えるようにする。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(4)	情報提供の方法を改善し、引き続き、保護者の学校への関心を高める。			

25年度 評価基準

アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 50%以上減 B 40%以上50%未満減 C 30%以上40%未満減 D 20%以上30%未満減 E 20%未満減
(2)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(3)の項目	A 全国5つ以上出場 B 全国3つ以上出場 C 全国1つ以上出場 D 中国大会等出場 E 県内大会出場のみ
(4)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目＝協議による